



DG Value News

第41期中間のご報告

2021年1月1日～2021年6月30日



VersaUV
LEC2-330/640

ローランド ディー.ジー.株式会社

証券コード 6789



企業理念

ミッション

**デジタル技術の活用で、
より豊かな社会を実現する**

スローガン

**創造の喜びを世界にひろめよう
BIGGESTよりBESTになろう
共感を呼ぶ企業にしよう**

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

当社グループでは、当期を初年度とする中期経営計画を策定し、「筋肉質な企業体質への変革」と「事業ポートフォリオの転換」に取り組むことで持続的な成長のための体質の変革に取り組んでいます。(本誌特集ご参照)

2021年12月期第2四半期は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、ワクチン接種の普及にともない経済活動の正常化に向けた動きが進み始めました。こうしたなか、各種イベント、展示会の開催が始まり、オンラインと対面の融合を図り顧客接点の拡大に努めました。同時に、急速な需要回復のため一部製品で受注残を抱えていたものの、増産体制を整え安定供給に努め受注残を解消したことが、売上増加

の一因となりました。一方、世界的なコンテナ不足を起因とする、船便の確保や納期の遅延、海上輸送費の高騰といった影響や、半導体をはじめとする電子部品などの調達リスクが顕在化するなど、サプライチェーン面では不安定な状況が続きましたが、業績への影響は軽微に留まりました。

引き続き、不透明な状況が続くと想定されますが、株主さまのご期待にお応えすべく、役職員一同、社業に邁進してまいります。今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

田部 耕平

当期より始動しました2023年度を最終年度とする中期経営計画では、「筋肉質な企業体質への変革」と「事業ポートフォリオの転換」に取り組むことで、持続的成長を目指しています。この半年間の進捗をご報告申し上げます。

1 筋肉質な企業体質への変革

競争力の強化と事業環境への変化に適応するべく、20億円の固定費削減を目標とした構造改革に取り組んでいます。当第2四半期は、「早期希望退職者の募集」と「量産機能の集約」を実施しました。

早期希望退職による固定費削減効果

当社では創業以来初となる早期希望退職者の募集を3月に実施し、150名募集に対して190名の応募がありました。固定費削減効果につきましては、当期は5億9千万円、来期以降は年間10億9千万円を見込んでいます。応募人数が想定を上回りましたが、業務プロセスの見直しと効率化を推進し、筋肉質な企業体質を目指しております。

営業利益への効果額	(単位：百万円)			
	2021 上期	2021 下期	2021 通期	2022 以降
実績効果額	220	370	590	1,090

早期希望退職費用 ※特別損失へ計上	(単位：百万円)		
	2021 上期	2021 下期	2021 通期
実績費用	1,249	0	1,249

量産機能の集約

当社では、国内工場とタイ工場の2拠点で生産を行ってまいりました。今回の構造改革では、製品原価の低減を推進するとともに価格競争力の向上を目的に、量産機能をタイ工場へ集約します。国内工場につきましては、マザーファクトリーとして試作や小ロット生産、技術移管などを行い、役割を明確化します。また、量産機能の集約にともない、タイ工場では増床工事を行っております。現在、都田事業所で生産している業務用大型インクジェットプリンター、デンタル加工機などの量産品の生産を集約することで、生産機種数は現在の16機種から32機種に、生産能力は、業務用大型インクジェットプリンター換算で従来比約40%増の17,000台となる予定です。

なお、タイ工場の増床工事につきましては、タイ国内の新型コロナウイルスの感染拡大の影響により一部工期が遅れておりますが、年内に完了予定です。



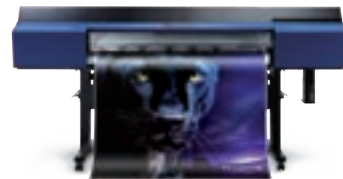
2 事業ポートフォリオの転換に向けて

事業ポートフォリオの転換として、既存事業の効率化を進めることで経営資源を確保し、新興国、新領域向け製品の拡充を進めています。当第2四半期は新型コロナウイルス感染症拡大にともなう市場変化を踏まえ、新たな需要を取り込んでまいりました。

既存事業

DP事業

業務用大型インクジェットプリンターの主力市場であるサイン市場では、新型コロナウイルス感染症の拡大による行動規制を受けたことから、オンラインを活用した情報発信やビジネス提案に注力するとともに、ユーザーの仕事を止めないサポート体制を強みに、コロナ禍で獲得した感染防止対策の表示物の出力需要が、当第2四半期もプリンター売上の下支えとなりました。ワクチン接種が進む地域では、展示会のリアル開催も徐々に始まり、広告表示物の製作需要に回復の兆しが見え始め、特に北米において当社の存在感が大幅に高まっています。また、環境配慮の観点から、今後の低溶剤インクから非溶剤系インクへのソリューション転換にあたり、コロナ禍でも強化することができた顧客基盤が大きなアドバンテージになると考えています。



VG2-540



VG2-640

TrueVIS

DGSHAPE事業

デンタル(歯科医療)市場では、コロナ禍における世界的なサプライチェーンの混乱を受け、北米や欧州を中心に新興国への外注から歯科技工の自国内の内製化の需要が高まっております。加えて、審美歯科へ“投資”する患者が増えてきたこと、金属系歯科材料の高騰を受け、セラミック系の材料の需要が増加していることから、加工機の需要拡大が続くと見込んでいます。さらに、デンチャー(入れ歯)やインプラントなどのデジタルワークフローの啓蒙に注力することで、売上拡大に繋がってまいります。



DWX-52DCi

新興国

DP事業

当第2四半期は、新興国向け製品第一弾として、板材・厚物印刷用UVプリンター「EU-1000MF」を市場に投入しました。ASEAN地域、中南米を皮切りに、今後は販売地域を拡大していく予定です。当機を新興国市場拡大の足掛かりと位置づけ、サポート体制もセットで当社の価値を提供してまいります。



EU-1000MF

DGSHAPE事業

新興国のデンタル市場においても、「生産性」「加工品質」「安定性」が重要視されています。当第2四半期では新興国向け製品の投入が進み、ASEAN地域、インド、中東、北アフリカなどで販売が拡大しました。今後はタイ工場への生産集約によりコストダウンを進め、新興国の販売展開を加速してまいります。

新領域

DP事業

コロナ禍において、インハウスなどスモールビジネス需要が高まったことを背景に、小型プリント&カット機、カッティングマシン、テキスタイルプリンターの販売が拡大しました。「コンパクトサイズ」「簡単操作」「導入しやすい価格帯」の特長がコロナ禍で生まれた多様なニーズに合致し、多くのお客様に好評を得ることができました。新たな提案先としてスモールビジネス市場の開拓を加速してまいります。

また、欧州を中心に特定用途向けのCo-Creation製品を展開し、厚物印刷用UVプリンターが順調に拡大しており、当第2四半期は、欧州で培った経験と実績を北米やアジアなどへ横展開を進めております。

事業横断

当第2四半期は、これまでデンタル加工機で提供してきたコネクテッドサービスをプリンターにおいても開始しました。(本誌8ページご参照)ITを活用した顧客接点の創出により、ユーザーの効率的な事業運営を支援してまいります。



働き方改革

新型コロナウイルス感染症の世界的流行を受け、当社グループでは、昨年3月より従業員の健康と安全を第一に考え、時差勤務および在宅勤務の導入を推進してまいりました。緊急措置的に開始しましたが、円滑に業務を遂行し、組織運営が十分に機能することが実証されたこと、また、今後の人命や健康に関わるクライシスが発生した場合の備えとして、2020年7月より在宅勤務を、2021年1月よりフレックスタイム制度と時間単位有給制度を正式に導入しました。現在約7割の役職員がこれら制度を利用しています。今後の持続的な成長を支えるのは従業員であり、働き方も重要な課題としてとらえています。多様な働き方を選択できる環境を整備することで、従業員一人ひとりが、能力を十分に発揮し、イキイキと働くことができる会社を目指して、当社グループの変革を加速させてまいります。

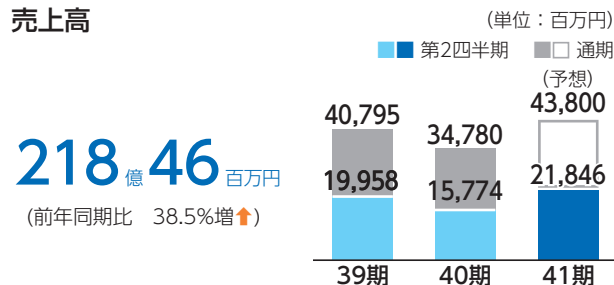


経済活動の正常化が進み、前年同期と比べて大幅な増収増益

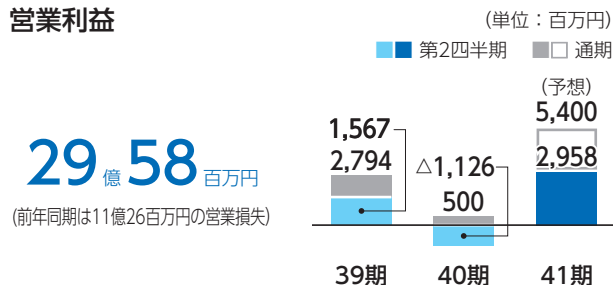
■ 2021年12月期第2四半期業績について

当第2四半期の連結売上高は、主力市場のサイン市場と成長分野のデンタル市場での販売増加に加えて為替の円安効果もあり、前年同期比38.5%増の218億46百万円となりました。売上原価率は、売上高が大幅に増加したことから、前年同期と比べて改善しました。販売費及び一般管理費は、前年同期から4.8ポイント増加しましたが、売上高に対する比率は前年同期から9.8ポイント低下しました。これにより、営業利益は29億58百万円(前年同期は11億26百万円の営業損失)、経常利益は30億59百万円(前年同期は12億18百万円の経常損失)となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、第1四半期に早期希望退職者の募集にともなう費用を特別損失として計上したこともあり、15億80百万円(前年同期は13億24百万円の純損失)となりました。

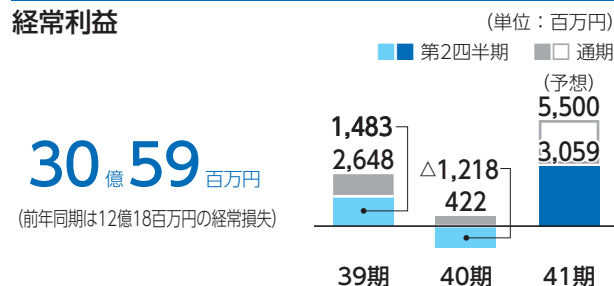
売上高



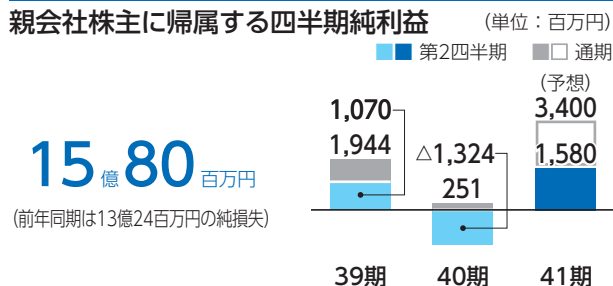
営業利益



経常利益

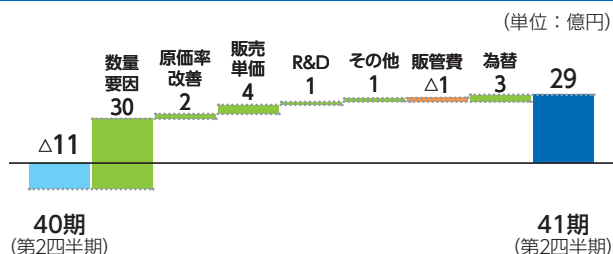


親会社株主に帰属する四半期純利益



営業利益の増減要因

- 「為替差益」により3億円の押し上げ効果
- 人件費や運送費が前年同期と比べて増加したものの販管費の売上高に対する比率は低下

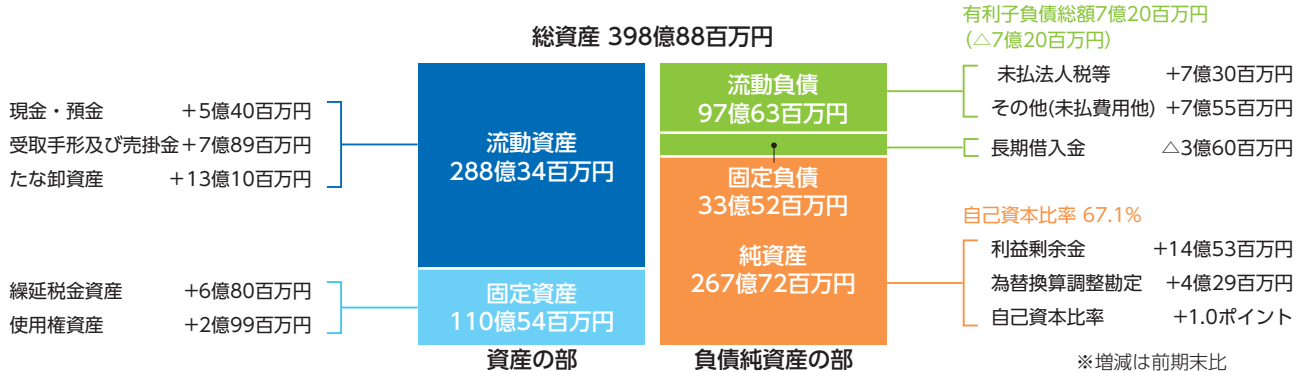


要約貸借対照表

健全なバランスシートを維持

当第2四半期末の総資産は、前期末に比べ、35億87百万円増加し、398億88百万円となりました。

- その他(未払費用)：早期希望退職の実施ともなう未払い費用の計上
- 有利子負債：当期中に有利子負債の返済完了の見込み



株主還元

中間配当は増配

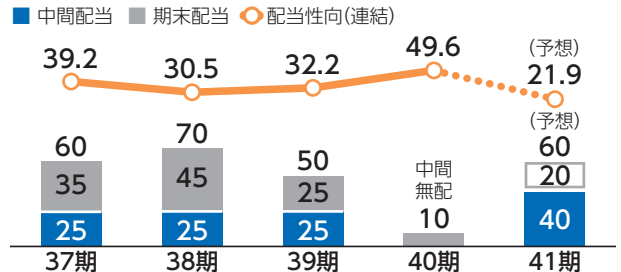
中間配当 1株につき 40円

当社では、連結利益に対する配当性向30%もしくは株主資本配当率(DOE)2%以上の両基準で算出した数値のいずれか高い金額を基準に、安定した金額を継続的に実施することを目標として、今後の事業展開を総合的に勘案の上、決定したいと考えております。

中間配当につきましては、四半期が想定を上回ったことから、期初予想から20円増額し、40円とさせていただきます。

また、期末配当については見直しをせず、20円とし、1株当たりの年間配当は60円となる予定です。

1株当たり配当金/配当性向(連結) (単位：円/%)



第41期通期 連結業績予想

- 増収増益を想定
- 新型コロナウイルスや部品調達リスクなど不確定要素も残る

第3四半期以降は、経済活動の正常化に向けた設備投資需要が持続するものと見込んでいます。一方、電子部品などの調達が困難な状況は継続すると見られ、当社グループにおきましても生産や開発への影響が一定量生じると想定していますが、当第2四半期の業績および為替の想定レートの見直しによる効果もあり、売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は、前期を上回る見込みです。

	第41期通期 連結業績予想
売上高	438億円
営業利益	54億円
経常利益	55億円
親会社株主に帰属する当期純利益	34億円

第3四半期以降の為替想定レートは次のとおり見直しています。
1米ドル=105円、1ユーロ=130円(期初は1米ドル=100円、1ユーロ=125円)

事業の概況(品目別)

売上高構成比

その他

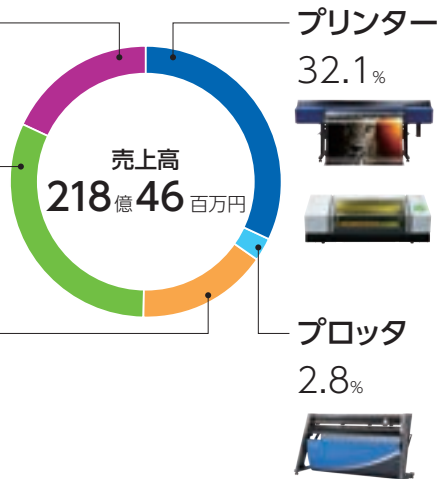
17.8%

サプライ

31.8%

工作機器

15.5%



プリンター

32.1%



プロッタ

2.8%



プリンター

売上高

70億10百万円

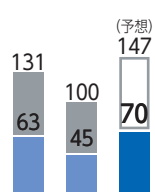
前年同期比 52.7%増 ↑

売上高

(単位: 億円)

■ 通期

■ 第2四半期



39期 40期 41期

サイン市場向けに3月には、UVプリンターVersaUV(バーサユーブイ)LEC2シリーズのラインナップ強化として「LEC2-640/330」を発売しました。4月には、安定した稼働環境を実現することを目的としたクラウドサービス「Roland DG Connect(ローランド ディージー・コネクト)」を発売しました。



コロナ禍において感染予防を促す注意喚起表示などの出力需要が下支えしている状況が持続しました。ワクチン接種が進

む一部地域では、対面での展示会やイベントの開催が始まり、屋外広告などの需要が回復したことから、サイン市場向けプリンターの販売が増加しました。さらに、オリジナルグッズやノベルティ製作の需要の回復が見られ、リテール市場向けの卓上型UVプリンターの販売も堅調に推移しました。また、インハウスやスモールビジネス向けに卓上型の低溶剤インクジェットプリンターの導入が拡大しております。



プロッタ

売上高

6億19百万円

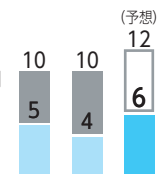
前年同期比 24.6%増 ↑

売上高

(単位: 億円)

■ 通期

■ 第2四半期



39期 40期 41期

サイン市場向け大型カッティングマシンおよびインハウス向け小型カッティングマシンの販売が増加しました。



工作機器

売上高

33億87百万円

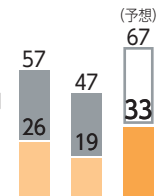
前年同期比 71.4%増 ↑

売上高

(単位: 億円)

■ 通期

■ 第2四半期



39期 40期 41期

デンタル市場において、新型コロナウイルスの感染拡大が続く地域では、感染予防の観点から歯科技工所や歯科クリ

ニックは引き続き低稼働の状態推移しました。ワクチン接種が進む地域では規制解除により経済活動が再開し、設備投資需要が急速に回復したことから、デンタル加工機の販売が好調に推移しました。3Dものづくり市場においても、3次元切削加工機の販売が増加しました。

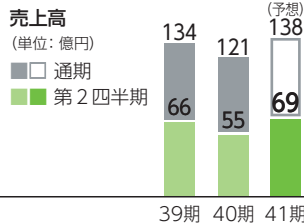


サプライ

売上高

69.40 億 百万円

前年同期比 24.7%増 ▲



コロナ禍において感染予防を促す注意喚起表示などの出力需要が持続しています。さらに、ワクチン接種が進む一部地域では、対面での各種イベントが開催されたことから、広告やイベントに関連する出力需要も回復が見られました。

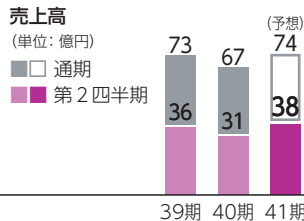


その他

売上高

38.89 億 百万円

前年同期比 23.7%増 ▲



当第2四半期は、出力需要の回復から製品稼働率が改善したことでサービスパーツの販売が堅調に推移しました。

新製品情報

VersaUV
LEC2-330/640
発売日 2021年3月22日



UVプリンター“VersaUV LEC2シリーズ”の新製品「LEC2-640」(最大用紙幅1,625mm対応)と「LEC2-330」(同762mm対応)の2機種をラインナップに追加しました。新しい専用インクをはじめ、最新のプリントヘッドやLEDランプなどの採用により、表現力の大幅な向上を実現しました。同時に、64インチモデルを新たに追加したことで、大型広告看板やインテリアデコレーションから、食品、飲料などパッケージ製作業務におけるデザイン校正まで用途の幅を広げました。多彩な対応力を持つLEC2シリーズは、お客さまのプリントビジネスの発展に貢献してまいります。

Roland DG Connect

for Everything Creative

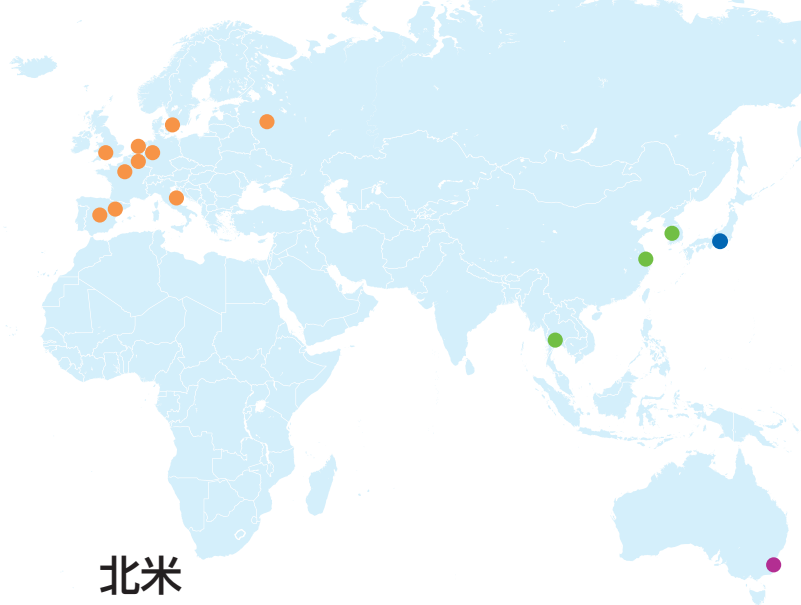
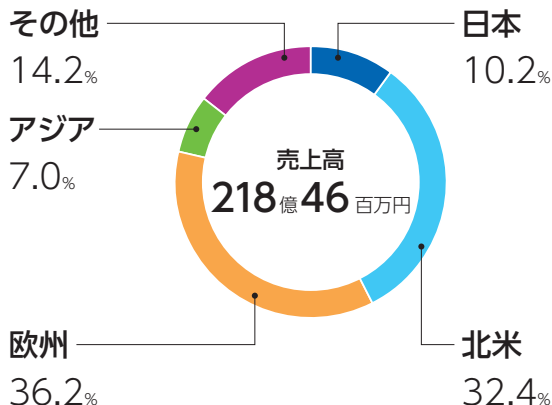
サービス開始日 2021年4月17日



インターネット上でさまざまな人々と製品と“繋がる”ことで、お客様の創造の可能性を大きく広げるコネクテッドサービス「Roland DG Connect」を新たに開始しました。お客さまがRoland DG Connectに登録いただくことで、当社と双方向で情報共有が可能となります。今回、第一弾として、「より快適で安定した稼働状況を実現するサービス」と「仕事の効率性を向上させるサービス」を提供します。今後も、随時新たな機能やサービスを拡張していくことで、より魅力的な創造のサイクルをお客さまとともに創り出してまいります。

グローバルネットワークを通じて、200以上の国と地域に製品と

売上高構成比



日本

売上高

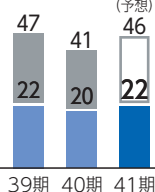
22億18百万円

前年同期比 8.8%増 ▲

売上高

(単位: 億円)

■ 通期
■ 第2四半期



新型コロナウイルス感染症の再拡大にともない経済活動の制限が続き、イベントや屋外広告などの需要が低迷したことで、サイン市場向けプリンターと低溶剤インクの販売が前年同期を僅かに下回りましたが、リテイル市場とサイン市場向けのUVプリンターの販売が増加しました。工作機器では、デンタル市場において、昨年9月に保険適用範囲の拡大を受けて小型デンタル加工機の販売が増加するとともに、主力機種についても販売が増加しました。

北米

売上高

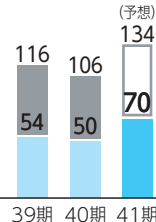
70億87百万円

前年同期比 40.2%増 ▲

売上高

(単位: 億円)

■ 通期
■ 第2四半期



新型コロナウイルス感染症のワクチン接種率の高まりにともない、各種規制が解除され、経済活動の再開が進みました。デンタル市場における設備投資需要は旺盛で、デンタル加工機の販売が堅調に推移しました。コロナ禍において、歯科技工の内製化の需要が高まり、ウェット方式のデンタル加工機の導入が進みました。プリンターでは、サイン市場向けプリンターの主力機種と、インハウスやスモールビジネスでの需要の高まりから、卓上型の低溶剤プリンターの販売が大きく増加しました。

サービスを提供しています

アジア

売上高

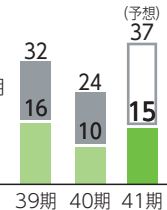
15億31百万円

前年同期比 42.7%増 ↑

売上高

(単位: 億円)

■ 通期
■ 第2四半期



中国では、経済活動の再開が進み、デンタル市場においては対面での展示会が開催されました。デンタル加工機とサービスパーツの販売が増加し、前年同期を上回りました。韓国とインドではデンタル加工機の販売が大きく増加しました。ASEANの一部地域では新型コロナウイルス感染症の再拡大にともない経済活動が制限されたものの、デンタル加工機と売上構成比の大きいサービスパーツの販売が増加しました。

欧州

売上高

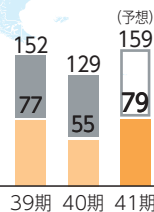
79億01百万円

前年同期比 42.3%増 ↑

売上高

(単位: 億円)

■ 通期
■ 第2四半期



一部地域では新型コロナウイルス感染症の影響による経済活動の制限があったものの、設備投資需要が堅調に推移しました。プリンターでは、サイン市場とリテイル市場向けの販売が、工作機器では、高生産性が特長のデンタル加工機の販売が増加しました。前年同期に新型コロナウイルス感染症の影響で販売が落ち込んだことに加えて為替の円安効果もあり、当第2四半期の売上高は前年同期を上回りました。

その他

売上高

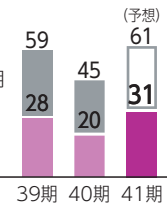
31億07百万円

前年同期比 51.1%増 ↑

売上高

(単位: 億円)

■ 通期
■ 第2四半期

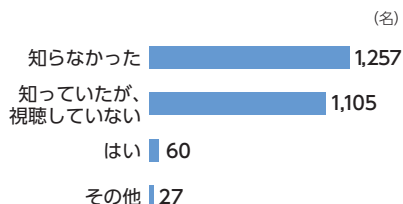


オーストラリアではサイン市場向けプリンターと低溶剤インクの販売増加に加えて、オーストラリアドルの円安効果もあり、前年同期を大きく上回りました。ブラジルではサイン市場向けプリンターを中心に販売が増加し、これにともないインクとサービスパーツの販売が増加しました。円高影響を大きく受けたものの、前年同期を上回り増収となりました。中東地域では、主にデンタル加工機の販売が増加しました。

株主さまアンケート集計結果

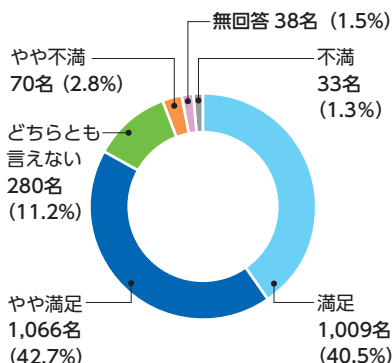
第40期DG Value Newsにて実施させていただきました株主さまアンケートでは、2,496名(10.8%)の株主さまにご回答をお寄せいただき、心からお礼申し上げます。ここにアンケート結果の一部をご紹介します。

Q1 株主総会の当日のライブ配信はご覧になりましたか？

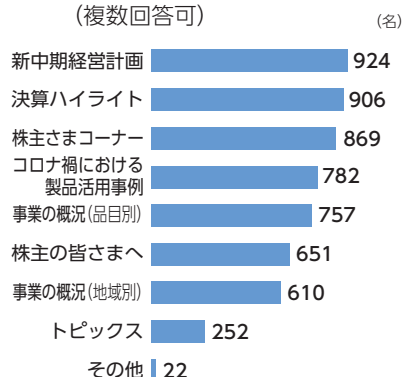


次回の定時株主総会でも
ライブ配信を予定しております

Q2 当社株主優待制度の変更について評価をお聞かせください



Q3 本誌をお読みになり、興味を持たれた項目をお聞かせください (複数回答可)



その他ご意見・ご要望

- 新社長の経営手腕に期待しています。
- 改革心を常に持ち、チャレンジする会社であってほしい。
- 新型コロナウイルスのため経済は停滞していますが、絶対に乗り越えて下さい。
- 中期経営計画はもっと掘り下げてほしい。

お知らせ

第40期DG Value Newsにてご紹介しました「コロナ禍における製品活用事例」のうち、アマビエのキーホルダーにつきまして、多くの株主さまよりお問合せをいただきました。詳細につきましては、ネストグラフィックス様の公式ツイッターをご覧ください。

ネストグラフィックス様公式ツイッター

https://twitter.com/nest_graphics



● 株主優待品 寄付のご報告

2020年12月31日現在の株主さまにお送りしました「株主優待カタログ」において、「豪雨、震災などで被災した地域の子供達への支援」および当社本店所在地である浜松市が取り組む「ベンチャーの起業支援」への寄付を募集させていただいたところ、多数の株主さまにご賛同いただき、81,200円を認定NPO法人「カタリバ」へ、2,500円を浜松市産業部へ寄付させていただきました。また、株主優待権利未執行分につきましては、「ベンチャーの起業支援」として浜松市産業部および「新型コロナウイルス感染症の対策支援」として浜松市危機管理課へそれぞれ406,950円、合計813,900円を当社名義で寄付させていただきました。多数の株主さまのご芳志を賜り、厚くお礼申し上げます。



● 第40期 定時株主総会のご報告

2021年3月18日午後1時より、オークラアクトシティホテル浜松において、第40期定時株主総会を開催しました。決議事項の3議案（「剰余金の処分の件」、「資本準備金の額の減少の件」、「取締役7名選任の件」）につきましては、原案どおり承認可決され、午後2時6分に閉会いたしました。当日は、15名の株主様にご出席いただき、3名の方より中期経営計画などについてご質問やご意見をいただきました。なお、本総会は、当社では初となるライブ配信を実施するとともに1都3県の緊急事態宣言の延長にともない、静岡県外在住、海外在住の取締役および監査役はリモート出席となりました。

今後も株主総会の内容の充実を図るとともにSR活動のDX化を推進することで、株主さまとの対話強化を目指してまいります。



株主総会の様子

なお、株主総会の動画を当社ホームページより配信しております。ぜひ、ご覧ください。



● 株主優待

当社では、1年以上継続保有(株主名簿基準日に連続して3回記載)の株主さまを対象に、年1回株主優待を実施しています。

株主優待内容

保有株式数	継続保有期間	優待内容
100株以上 300株未満	1年未満	—
	1年以上	当社オリジナルカタログより 3,000円相当の商品を1品贈呈
300株以上	1年未満	—
	1年以上	当社オリジナルカタログより 5,000円相当の商品を1品贈呈



デンタル市場の需要開拓に向け デジタルデンチャーセミナー開催

5月21日、デンタル市場の需要開拓に向けたセミナーを開催しましたので、ご報告します。

DGSHAPE株式会社
DGSHAPE市場開発部
デンタルマーケティングユニットマネージャー
峰野洋介



Q デンチャー製作のデジタル化を提案する背景を教えてください。

先進国では超高齢化社会が進むなか、デンチャー（入れ歯）の需要が高まっていくと考えられています。その反面、歯科技工所においては若手歯科技工士が減少傾向にあること、さらに熟練の歯科技工士が高齢化し、その技術継承が課題となっています。これらの課題を解決する手段として、デンチャー製作のデジタル化に注目が集まっています。DGSHAPE株式会社では、2018年よりデンタル加工機のオプション品としてCA-DK1、CA-DK1-TRを展示会に出展し、2019年より歯科技工士向けにデンチャー製作のデジタル化を提案しています。

Q セミナーの内容を教えてください。

デンチャー製作に関する研究では日本最大級の会員数を誇る学会「日本有床義歯学会」の指導医である伊井歯科クリニックの井伊医院長、指導歯科技工士であるシンワ歯研の野澤先生に講師を務めていただきました。井伊先生には、デジタル製作されたデンチャーのメリットおよびクリニックでのワークフローと臨床例を、野澤先生には当社のデンタル加工機を活用した歯科技工所でのデンチャーのデジタル製作ワークフローとメリットなどを紹介いただいた後、DGSHAPEが提案するCA-DK1およびCA-DK1-TRの強みや課題などについて登壇者の先生方とパネルディスカッションを行いました。

Q セミナーはどのような方が参加されたのですか？

コロナ禍において、会場に集客することはできないため、オンラインでの開催となりました。集客方法として、地元の浜松市医師会へパンフレットを配布し、会報と併せて郵送をしていただきました。その他、

シンワ歯研様による有床義歯学会の会員様への告知、お取引先様の歯科医院や歯科技工所へのパンフレット配布、SNSやメールにて告知を行いました。当日の参加者は220名で約8割が歯科技工士と歯科医師でした。また、歯科技工士と歯科医師がほぼ同人数となり、歯科医師でも関心が高いトピックスであることがうかがわれます。また、浜松近郊だけではなく、全国の歯科医療従事者の方に視聴いただくことができ、オンラインのメリットをフルに活用することができました。

Q セミナーの成果をお聞かせください。

これまで歯科技工所向けに行ってきたデンチャーのデジタル化の提案を通じて、歯科医師の理解促進が必要であることがわかってきました。今回、直接歯科医師にもデンチャー製作のデジタル化のメリットを伝えることができたこと、またDGSHAPEの認知度を広めることができたことが一番の成果だと考えています。

Q 今後の意気込みを教えてください。

DGSHAPEでは、これまでもデンタル業界で影響力のあるKOL (Key Opinion Leader) との協業により、当社製品を使用いただき、セミナーや展示会でその有効性やノウハウを紹介いただくとともに、その厳しい視点を製品改良や新製品開発に活かしてきました。今回、KOLである井伊先生、野澤先生のご協力をいただきセミナーの開催となりましたが、視聴者からも大変好評をいただくことができました。デンチャーのデジタル化推進は中期経営計画では、既存事業に該当しますが、引き続き、KOLとの関係強化を図るとともにオンライン、対面の双方での啓蒙活動を通じて、歯科技工所が抱える課題の解消、患者さまの健康と快適な生活への貢献、そして売上拡大に繋げていきたいと思っております。

■ 会社概要

商号	ローランド ディー.ジー.株式会社
設立	1981年5月1日
資本金	3,668,700,000円
従業員数	1,163人(連結)
本店所在地	静岡県浜松市北区新都田一丁目6番4号

■ 役員一覧

取締役社長 ^{*1}	田部 耕平
取締役	上井 敏治
取締役	エリー・キースメーカース
社外取締役 ^{*2}	廣瀬 卓生
社外取締役 ^{*2}	細窪 政
社外取締役 ^{*2}	岡田 直子
社外取締役	ブライアン・K・ヘイウッド
常勤監査役	鈴木 正康
常勤監査役	長野 直樹
社外監査役 ^{*2}	松田 茂樹
社外監査役 ^{*2}	本田 光宏

※1 代表取締役です。
 ※2 (株)東京証券取引所が定める独立役員です。

■ 連結子会社

海外	16社
国内	1社

株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日
定時株主総会開催時期	3月中
単元株式数	100株
基準日	定時株主総会 12月31日 期末配当 12月31日 中間配当 6月30日

公告方法

その他必要があるときは、あらかじめ公告します。
 当社の公告は電子公告とし、インターネットホームページに掲載します。
www.rolanddg.com/ja/investors/
 ※ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

株主名簿管理人
 特別口座の口座管理機関

三菱UFJ信託銀行株式会社

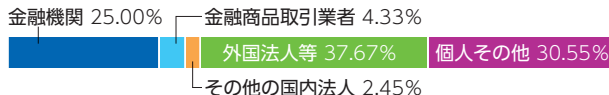
■ 株式の状況

発行可能株式総数	71,200,000株
発行済株式の総数	12,656,311株
株主数	15,386人

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,106,900	8.75
TAIYO HANEI FUND, L.P.	891,700	7.05
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505227	853,600	6.75
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	839,900	6.64
TAIYO FUND, L.P.	439,300	3.47
BNYMSANV AS AGENT/CLIENTS LUX UCITS NON TREATY 1	355,100	2.81
富岡 昌弘	326,900	2.58
SMBC日興証券株式会社	262,100	2.07
ローランド ディー.ジー.社員持株会	218,493	1.73
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140040	195,830	1.55

※持株比率は発行済株式の総数から自己株式数342株を除いた数に基づき算出しております。
 ※持株比率の計算上、役員向け株式給付信託および従業員向けインセンティブ・プラン(株主給付型ESOP)の信託財産として、株式会社日本カストディ銀行(信託口)が所有している当社株式198,500株を含めて計算しております。

■ 所有数別状況



※自己株式342株は「個人その他」、証券保管振替機構名義株式8,500株は「その他の国内法人」に含まれています。
 ※記載比率は、小数点第2位未満を四捨五入して表示しています。

同連絡先

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 東京都府中市日鋼町1-1
 電話 0120-232-711(通話料無料)
 [受付時間 9:00~17:00(土、日、祝祭日、年末年始を除く)]
 ホームページ www.tr.mufg.jp/daikou/
 IRユニット TEL 053-484-1400

本誌に関するお問い合わせ先

(ご注意)

- 株主さまの住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社など)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社などにお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店においてもお取り扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

IRサイトのご案内

当社 IR サイトの機能拡充として、「リアルタイム株価表示」、「業績推移データ」などを設置しました。今後も株主、投資家の皆さまにとって有用な情報な財務・非財務情報の積極的かつタイムリーな開示に努めてまいります。

リアルタイム株価表示

IR サイトトップページにリアルタイムの自社株価を表示しています。

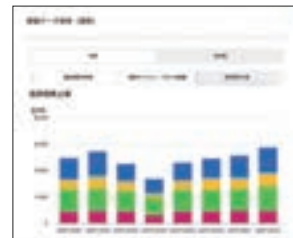
株価情報

リアルタイム株価だけでなく、過年度の株価・出来高をグラフや表で掲載しています。また、現在の株価に対して損益を計算する投資計算機もご利用いただけます。



業績推移データ

過去5年分の業績データを通期、四半期のグラフで表示しています。さまざまな指標から、当社の経営状況を見ることができます。



ファクトシート

会社紹介や財務データに加え、株式情報、直近の株価動向など、企業分析に有用なデータを要約して掲載しています。



www.rolanddg.com/ja/investors/

ローランド ディー.ジー. IR

検索

